

登録コード	E8460400	開講年度	2026					
授業科目	卒業研究						担当教員	藤森 隼一
英文授業名	Graduation research						副担当	
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	
講義室	教育研究室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	問題解決能力を養うことで、主体的に社会へ参画することができる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	問題を見いだし、見通しをもって解決することができる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働、キャリア							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	(1)先行研究に基づいた自らによる研究課題の適切な設定 (2)その課題を解決するための自らによる具体的な研究方法の適切な企画 (3)学校現場での調査の実施 (4)結果の適切な分析処理 (5)客観的な考察 (6)設定した研究課題に対する客観的な結論及び今後の課題の適切な把握 (7)研究成果の学校現場への適切な還元による学校現場での授業改善への貢献							
(5)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：全体目標を踏まえた個人目標の設定 第3回：全体目標を踏まえた研究主題の設定 以下は例です。テーマによって内容は異なる場合があります。 第4～8回：先行研究調査 第9回：先行研究調査の記載方法 第10回：先行研究調査の分析方法 第11回：先行研究調査結果の情報交換 第12回：情報交換に基づいた先行研究の追加調査結果の情報交換 第13回：研究方法のプランニング（対象） 第14回：研究方法のプランニング（内容等） 第15回：研究方法のプランニング（用語の定義） 第16回：研究方法のプランニング（具体的方法） 第17回：研究方法のプランニング（調査用紙の作成） 第18回：分析方法のプランニング（量的処理） 第19回：分析方法のプランニング（質的処理） 第20回：分析方法のプランニング（客観性の保障法） 第21回：研究方法プランニングの情報交換 第22回：分析方法プランニングの情報交換 第23回：分析方法プランニングの情報交換に基づいた修正 第24回：研究結果の中間情報交換 第25回：研究結果と考察 第26回：研究の方向性の修正及び確認 第27回：卒業研究のプレゼンテーション法 第28回：卒業研究の総括、授業アンケート							
(6)成績評価の方法	・「理科教育研究表現力」が修得できたかどうかを、「卒業研究発表会」における発表の内容（20％）で評価します。 ・「理科教育研究実践力」が修得できたかどうかを、卒業論文として提出された論文の内容（30％）で評価します。 ・「理科教育研究企画力」が修得できたかどうかを、研究主題及び仮説の設定・研究方法の企画・分析・考察・結論・今後の課題・学校現場への貢献に対する到達状況（20％）で評価します。 ・「理科教育研究評価力」が修得できたかどうかを、学校現場での調査に関する到達状況（20％）で評価します。 ・自ら進んで「理科教育諸事象の中から自ら問題を見いだし、自ら論理的に考え、自ら判断し、自ら理路整然と調査の実行を推進・評価・修正し、事実を修正して分析評価し、問題解決を図ることのできる理科教育研究企画力、理科教育研究実践力、理科教育研究評価力、理科教育研究表現力を習得」する意欲や態度が習得できているかどうかを、授業態度（10％）、で評価します。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。							
(7)成績評価の基準	（i）自ら文献や資料を探し出して丹念に調べ、（ii）それをまとめるとともに関連する情報を精査して列挙し、（iii）その上でそれらに対する自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。（i）から（iii）の3項目をすべて満たしていれば教員を感心させるレベルになくとも「かなり上にある」。関連する情報が十分でなくとも教員を感心させるレベルにあれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。							

(8)事前事後学習の内容	・毎週、その前の週の授業内容の全員の理解度を講義の冒頭で確認するとともに、当該週で取り扱う内容に関して1週間で調べてきた関連情報を全員に発表してもらうので予習をして臨むこと。この授業は225時間の学修を必要とする内容です。従って、150時間以上の時間外学習が必要となります。
(9)履修上の注意	・ゼミ型式で進めますので必ず出席願います。 ・日本理科教育学会北陸支部大会や日本科学教育学会北陸甲信越支部研究会での発表を計画しています。 ・理科教育研究に携わる皆さんは、この授業を必ず受講願います。 ・本授業は教育学部DPの「教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能」、本学「多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる」「みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる」を培うものです。 ・本授業を漫然と受けるだけでなく、授業以外の時間を有効に活用し、自らの問題意識に基づいて見通しを持って積極的に文献収集し、結果を残すように努めることが肝要です。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	・在室であればいつでも,W313室,fujimori_junichi@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	・必要に応じて紹介します。
【参考文献】	・必要に応じて紹介します。